

# お子さんと一緒に考えてみませんか？ スマホやネットのこと

現代社会において、インターネットやスマートフォンは身近なツールとなり、子どもたちは日常的にそれらに接しています。その世代を「デジタルネイティブ」（生まれた時からインターネットが身近にある世代）と呼んでいます。今回は、子どもとインターネット、スマートフォンとの付き合い方について、少し考えてみたいと思います。



滋賀県子ども・青少年局 主査 小磯 浩司 (中学校教員)

## スマホに「子守り」をさせないで！

こんな言葉で(公社)日本小児科医会がポスターで啓発をしています。子どもたちの身のまわりには、知育系アプリや動画、ゲームなどが数多くあります。子どもがぐずったりすると、スマートフォンを渡して動画を見せたり、ゲームをさせたりして子どもたちの機嫌が直ったということはよくある光景です。そんな時、みなさんはお子さんに話しかけたりすることなく、家事や自分の時間を

を過ごしているということはないでしょうか。ここで気をつけたいことは、子ども一人だけで使わず、できるだけ親子で一緒に楽しむこと、そしてできるだけ子どもに声をかけることです。もし家事などで忙しい中、子ども一人で使う場面があったとしても、子どもとのコミュニケーションはとり続けて欲しいのです。インターネットやスマートフォンは親の代わりには決してなれません。

## フィルタリングで子どもを有害情報から守ろう

県が実施している「携帯電話等フィルタリング利用状況調査」の中で、

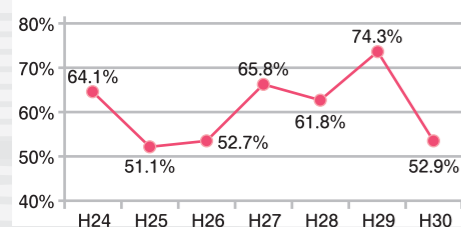
(1) 青少年契約者のフィルタリング契約率

(2) フィルタリング契約をしなかった理由として

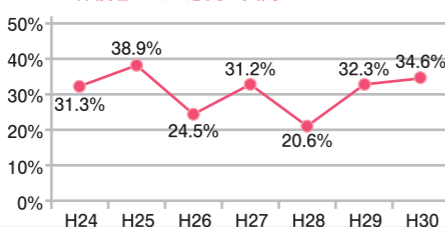
- ① 「青少年が反対した上で保護者がその意見に賛同した」割合
- ② 「保護者がフィルタリングは必要ないと判断した」割合

を調査しています。(調査期間は年度により違いはあるが、概ね1週間程度)

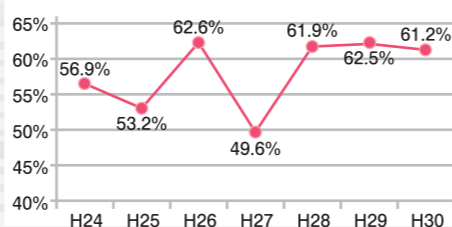
(1) 青少年のフィルタリング契約率



(2)-① 携帯電話を利用する青少年が反対した上で保護者がその意見に賛同した



(2)-② 保護者がフィルタリングを必要ないと判断した



このグラフから読み取れることは、大人側のフィルタリングの重要性に対する認識不足です。子どもを有害情報から守るのは大人の義務です。子どもはフィルタリングの設定によっては使用できないアプリがあることを知っているので反対してくることがあります。しかし、フィルタリングによって、架空請求やアダルトサイトへ

の誘導、個人情報漏洩など、多くを防げる可能性が高くなります。携帯電話会社等のフィルタリング設定では、アプリごとにフィルタリングが設定できたり、時間制限などもできます。子どもを守る視点で、お子さんとフィルタリングの重要性についてしっかりと話し合い、是非ともフィルタリングをかけるようにしてほしいものです。

## 子どもと一緒にルールを考えましょう！

以前、お父さん向けに「私が考える我が家のスマホルール」という内容のワークショップを行ったことがあります。その中で「週に1度LINEの中身を見せる」というルールを書いたお父さんがいらっしやいました。もし、このルールを中高生に提示したらどうなるでしょうか？きっと猛反発にあうことでしょう。このワーク

ショップのポイントは、このルールは、子どもの意見は入れずに「お父さんだけで決めた」ところにあります。多少の反発もあるかと思いますが、スマホを渡す前にぜひお子さんとルール作りをしてもらいたいと思います。(携帯ゲーム機なども同じ)そしてお子さんの成長とともに少しずつ見直していくことをおすすめします。

インターネットやスマートフォンは日々進化し続けています。私たち大人はアンテナを高くし、その情報をしっかりとキャッチしましょう。そしてそれを「難しいから…」というだけで誰かに任せっきりにしないで、お子さんと一緒に学び、考えていくことが大切です。

困った時の相談窓口

※詳しくは右記のQRコードより、各ホームページをご確認ください。

警察相談窓口

#9110 警察相談専用電話



188 消費者庁

消費者ホットライン



違法・有害情報

相談センター



## 滋賀県立図書館による おすすめ本



こんにちは。滋賀県立図書館児童室です。親子で読んで、子どもだけで読んで楽しいおすすめ本を紹介します。今号のテーマは、「春がきた!」です。紹介した本は、県立図書館や、お近くの市町立図書館で、借りることができます。

絵本

### 『もういいかい』

中野真典 作 BL出版 (2015年刊)

二人の女の子が、かくれんぼをしています。神社の境内では、あちこちで虫たちが顔を出し、花は色鮮やかに咲いています。「もういいかい」「まーだだよ」のかけ声とともにページをめくっていくと、生き生きとした春に出会えます。



### 『てんきのいい日はつくしとり』

石川えりこ さく・え 福音館書店 (2016年刊)

春になり地面からよきによき生えてくるつくし。ある日、ちえちゃんはおはあちゃんと一緒につくしとりに出かけます。はじめてのつくしとり、ちえちゃんはドキドキわくわく。おにいちゃんとおねえちゃんに負けない大きなくしがりたくて一生懸命がんばります。みんなでとったつくしは、卵どじにしておいしくいただきます。

日本の読み物

知識の本

### 『さくら研究ノート』

近田文弘 著 大野八生 絵 偕成社 (2017年刊)

春の訪れを告げるように、一斉に咲き始めるソメイヨシノ。きっと皆さんにも馴染みでしょう。ただ眺めるだけでも美しい光景ですが、その花や実のつくり、葉のつくりやはたらき、花をつけていない時期の木の営みなどを知ると、より味わいが増すかもしれません。さあ、本を開いてさくらを知る旅に出かけましょう。



### 『子ガモのボタン』

ヘレン・ピーターズ 作 エリー・スノードン 絵  
もりうちすみこ 訳 さ・え・ら書房 (2018年刊)

春はいろいろな生き物がうまれる季節。三月のある日、ジャズミンとトムは、茶色いテリア犬がかまを襲っているところに出くわします。今の時期なら、このかまを卵を温めていたかもしれない…。川べりの巣に、残された卵を見つけた二人は、母ガモの代わりとなって卵を育てることになります。

外国の読み物

お問合せ

滋賀県立図書館

〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1740-1

☎077-548-9691 <https://www.shiga-pref-library.jp/>